

# 「テモイイ」と「タッテイイ」

## —2形式の対照から浮かび上がる「タッテイイ」の特性—

蓮沼昭子（姫路獨協大学・創価大学名誉教授）

hasunuma415@gmail.com

### 【要約】

コーパスの用例を用い、類義表現とされる「タッテイイ」と「テモイイ」の対照を試みた。2形式の用法の分布状況を比較した結果、この2つは単なる文体的変種とは言えない、際立った対照性を示すことが分かった。その最大のもは、「タッテイイ」は疑問文では用いられず、〈許可求め〉の用法をもたない点である。「タッテイイ」は〈非難〉〈異議申し立て〉の発話で使用される傾向が強いが、その理由は、「タッテイイ」の中核機能を〈自己正当性の主張〉と捉えることにより説明可能であることを示した。

### 1. はじめに

「タッテイイ」は「テモイイ」<sup>1</sup>のくだけた口語的変種という説明が与えられることが多いが、それぞれの用法特性やその分布には大きな相違があり、前者を後者の単なる文体的変種として扱うことは適切とは言えない。本稿は、コーパスのデータを用い、それぞれの用法の分布状況を観察することにより、2形式の相違を明らかにすることを目的とするものである。

「テモイイ」の先行研究としては、中俣（2020）の6200例を超える膨大な実例調査に基づく優れた研究があるが、「タッテイイ」についてはまとまった研究がなく、その用法の特性もいまだ不明な点が多い。本稿は、中俣の「テモイイ」の研究を「タッテイイ」の分析に援用し、コーパスで得られた「タッテイイ」の例に対する観察と分析を行う。2形式の用法の分布状況や共起する文末形式の違いに注目し、「タッテイイ」の特性を浮き彫りにすることが中心の目標である。

本稿の構成は以下の通りである。2節では問題の所在を指摘し、本稿の主張をあらかじめ提示する。3節では、本稿での用法分類が依拠する、中俣（2020）の「てもいい」の研究を紹介する。4節では、本稿の「タッテイイ」の調査方法と調査結果の概要を解説する。5節では、本稿で採取した「タッテイイ」の用例の用法分析を行う。6節では、「テモイイ」と「タッテイイ」の際立った用法の相違を指摘し、それが生じる理由について考察する。7節は全体のまとめである。

### 2. 問題の所在

最初に、「テモイイ」と「タッテイイ」が容認度において対照性を見せる例を観察しておきたい。以

---

<sup>1</sup> 本稿では、語句や活用形を代表するレンマ（辞書項目に相当）を片仮名表記で、実際の出現形を平仮名表記で示す。なお、他の研究の引用においては、原典での表記に従う。

下の(1)～(3)は、真夏のある日に交わされた暑がりの夫と冷房が苦手な妻の会話で、室温が28度を超えた状況でのやりとりである(すべて蓮沼の作例である)。\*は当該形式の使用が容認不可能、??は非常に不自然であることを示す。

- (1) 夫：エアコン、つけ {ても/\*たって} いい? 〈許可求め〉  
妻：いいけど、高めの温度設定にしておいてね。
- (2) 夫：そろそろエアコンつけ {ても/??たって} いいんじゃない? 〈提案〉  
妻：あたしにつけろって言うの?
- (3) 妻：あたしはこのぐらいだったら、我慢できる!  
夫：俺はもう我慢できない!こんなに暑いんだから、エアコンつけ {ても/たって} いい {だろう/じゃないか}。〈不満表明・異議申し立て〉  
妻：[しぶしぶ] どうぞお好きに。

(1)～(3)の夫の発話意図を観察しておこう。(1)は、エアコンをつけることに對し妻に容認を求める(許可求め)の発話、(2)はエアコンをつけてはどうかと妻に〈提案〉する発話、(3)は暑さに耐えかねた夫が、エアコンのスイッチを入れることに消極的な妻に對し〈不満表明・異議申し立て〉を行っている発話である。「タッテイイ」の容認度を見ると、(1)では容認不可能、(2)ではかなり不自然であるのに対し、(3)では使用可能である。一方、「テモイイ」は(1)～(3)のすべてで使用可能である。

(1)～(3)は、夫婦間のくだけた会話であり、「タッテイイ」が「テモイイ」の単なる口語的変種に過ぎないのなら、すべてで使用できてよさそうに思われるが、(1)(2)ではそれが不可能、(3)ではそれが可能である。一方、「テモイイ」はそうした使用上の制約をもたず、すべての場合に使用可能である。「タッテイイ」と「テモイイ」の間に見られる以上のような容認度の違いは、なにゆえに生じるのだろうか。

本稿は以上の現象や疑問に對し、その解明を目標とするものだが、ここで、あらかじめ結論を先取りした形で、本稿の主張の要点を示しておきたい。

## 本稿の主張

1. 「テモイイ」と「タッテイイ」には大きな機能的相違がある
2. その最大の、そして本質的な相違は、「テモイイ」は、平叙文・疑問文のどちらにも使用されるのに対し、「タッテイイ」は、基本的に疑問文では使用されず、平叙文において話し手の主張の表明に用いられる点である。
3. 「テモイイ」は、〈許可与え〉〈許可求め〉といった対話場面における話し手・聞き手の相互行為を表す発話での用法をもつが、「タッテイイ」は、もっぱら話し手の自己主張・意見表明の発話で用いられる。
4. 「タッテイイ」は、話し手の意見・認識を聞き手に訴えかけ、その共有を求める話し手の態度を表す。話し手と他者の間に立場・意見の対立がある文脈では、反論・異議申し立ての意図を表す。
5. 「タッテイイ」には「デハナイカ類」が高い頻度で後方共起する。これは上記4の機能的特性

から生じるものである。一方、「テモイイ」には「ノデハナイカ類」が後方共起する傾向が認められるが、「デハナイカ類」との間にはそうした傾向は認められない。

以上に述べた本稿の主張の詳細については、続く節で順を追って明らかにしていきたい。

### 3. 「テモイイ」の先行研究：中俣（2020）

「テモイイ」の先行研究としては、遠藤（2006、2008）、高梨（2010）などがあるが、以下では、本稿が依拠する中俣（2020）の研究を紹介しておきたい。中俣の研究は、大量の「テモイイ」の実例を分析し、その体系を記述した最新の研究であり、日本語教育への示唆も含む点で、最も優れた研究と考えられるからである。

中俣は、「てもいい」が動詞の肯定テ形（＝シテ）を受ける場合に限定して用法調査を行っている。「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（BCCWJ）の 6226 例の「てもいい」の例に対し、自ら立てた 11 の用法の枠組みを適用し、その詳細を記述・分析している。中俣の用法の枠組みを表 1 に示す（元となった表のレイアウトを一部変更している）。

表 1 中俣（2020）における「てもいい」の用法の枠組み

A 関与「てもいい」			B 非関与「てもいい」
	行為者＝話し手	行為者＝聞き手	
決定権＝ 話し手	A1 申し出	A2 許可与え	B1 選択肢提示
			B2 主張保証
			B3 受忍
決定権＝ 聞き手	A3 許可求め	A4 非難・なじり	B4 理想
			B5 許容
			B6 全称肯定
			B7 論理的可能性

A 関与「てもいい」とは、発話場面で、発話者もしくは相手の行動の実行を許可したり、許可を求めたりする「てもいい」で、A1～A4 の 4 種がある。B 非関与「てもいい」とは、A の機能をもたない「てもいい」で、B1～B7 の 7 種がある。それぞれの用法の特徴を要約し、代表例を 1 例ずつ挙げておく。

#### A 関与「てもいい」

【A1 申し出】「私がやってもいい」のように、自分の行動を申し出る場合の用法。

(1) 送ってほしいんだったら、送ってあげてもいいよ。

【A2 許可与え】聞き手が行う行為に対し、その実行を話し手が許可するもの。

(2) 先に帰ってもいいよ。

【A3 許可求め】話し手の行う行為の実行に対し、聞き手の許可を求めるもの。「か」などの疑問マークを必要とする。

(3) その手紙、拝見してもいいですか？

【A4 非難・なじり】聞き手が決定権をもつ聞き手の行為が実現されていないことに不満をぶつける表現。「～ぐらいVてくれてもいいんじゃないか」という構文が典型的。

(4) もういい加減に、打ち解けてくれてもいいんじゃないか。

## B 非関与「てもいい」

【B1 選択肢提示】「Vするという選択もある」に置き換えられるもの。意志的に選択できる行為の1つといった程度の意味。

(5) すいかは好みで砂糖をふつてもいい。

【B2 主張保証】引用句を伴い「～とVしても大げさではない」に置き換えられる。前接動詞は「言う」「考える」やその類義語に限られる。

(6) 若者たちが全力を尽くして仕事や遊びに取り組んでいる姿は、美しいと言つてもいいほどです。

【B3 受忍】ネガティブな内容を伴い、〈それでも構わない〉という意味をもつ。前接語は、「なる」「れる」(受け身)、「ある」など、いずれも非意志的事態。

(7) 姉が助かるのなら、私はどうなつてもいい。

【B4 理想】現実とは異なる内容について述べられ、〈べき〉に近い意味をもつ。望ましい事態を表す非意志的な動詞が多い。

(8) ドムアン空港は世界動物愛護協会から表彰されてもいい。

【B5 許容】倫理的、社会通念上許容されるということを表す。規則や慣習などで〈認められる〉という意味が強いもの。

(9) 狩猟してもいい鳥獣は決められています。

【B6 全称肯定】「疑問詞+格助詞Vしてもいい」という構造をもち、「疑問詞でもVしてよい」と置き換えられるもの。

(10) 面白ければ何をやつてもいい。

【B7 論理的可能性】さまざまな根拠から考えた結論を述べるもので、「はず」などを伴う。非意志的事態に対して使われる。

(11) そろそろ薬が効いてもいいころだ。

中俣は、BCCWJにおける6226例の「てもいい」に対し用法分類を行い、その分布比率を図2の円グラフで示している。A 関与「てもいい」の割合は少なく、合計しても17.2%程度であるのに対し、B 非関与「てもいい」は全体の多数を占め、中でも【B1 選択肢提示】が40%以上でトップの位置にあることを明らかにしている。

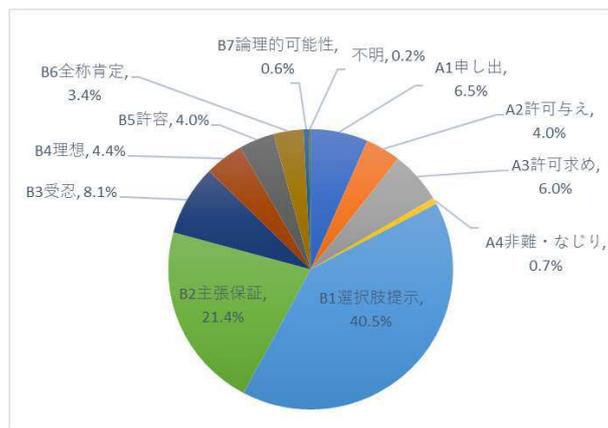


図1 BCCWJに出現した「てもいい」の用法の割合 N=6226 (中俣 2020 : 29)

#### 4. 本稿の調査の概要

この節では、本稿が実施した「タッテイイ」と「テモイイ」に対する調査方法とその結果の概要について解説する。

##### 4. 1 調査方法

本稿では、以下の3種類の調査を実施した。

調査1 BCCWJで使用された「タッテイイ」の用法分類とその分布状況の調査

調査2 名大会話コーパスで使用された「テモイイ」の用法分類とその分布状況の調査

調査3 調査1、調査2で得られた「テモイイ」「タッテイイ」の用例の文末に使用された「デハナイカ類」「ノデハナイカ類」の後方共起率の調査

3種類の調査方法の詳細について以下で解説する。

##### 4. 1. 1 調査1 BCCWJの「タッテイイ」の用例調査

「タッテ」はくだけた話し言葉で使用され、逆条件、引用等、多様な用法をもつため、検索結果には雑多な用法が混在し、希望する結果が得にくかった。何度かの試行錯誤を経て、最終的な検索方法にたどり着くことができたが、以下にその具体的方法を解説する。まず検索ツールの中納言の文字列検索を用いて「たって」を検索した結果、3種類の異なる語彙素・品詞に解析されることが分かった<sup>2</sup>。そこで、「タッテイイ」については、次の3種類の検索方法を試み、その結果、①から③に示す用例数を得た。

①文字列検索 (た|だ)って(い|よ|良|好)(い|か)

ヒット数：522例→絞り込みの結果得た対象例：200例

②語彙素検索 [たって] (接続助詞) + [良い]

ヒット数：250例→絞り込みの結果得た対象例：155例

③語彙素検索 [た] (助動詞) + [って] (副助詞) + [良い]

ヒット数：45例→絞り込みの結果得た対象例：45例

<sup>2</sup> 「たって」の文字列検索の結果は①～③の通りである。①語彙素 [たって] 品詞 [接続助詞]、②語彙素 [た] 品詞 [助動詞] + 語彙素 「って」 品詞 [副助詞]、③語彙素 [た] 品詞 [助動詞] + 語彙素 「つう」 品詞 [助動詞] 活用形 [連体形] (例「～したってこと」 = 「～したということ」の口語的表現)

絞り込み後の②③を合計した 200 例は、数例を除きほとんどが絞り込み後の①の 200 例に含まれていることが確認できたため、最終的には統一された検索条件で得られた①の 200 例を観察対象として使用することにした。

「タッテイ」の 200 例の用法分類は、表 1 に示した中俣（2020）の「てもいい」の用法枠組みに若干の修正を加え、以下の表 2 の枠組みに基づき行った。

表 2 「テモイ」「タッテイ」の用法枠組み（改定版）

A 関与			B 非関与
評定者	行為者（＝選択権者）		
	話し手	聞き手	
話し手	A1 申し出	A2 許可与え A4 非難・なじり	B1 選択肢提示
			B2 主張保証
			B3 受忍
聞き手	A3 許可求め (疑問文)	A5 依頼 (疑問文)	B4 理想
			B5 許容
			B6 全称肯定
			B7 論理的可能性

ここで、表 1 と表 2 の違いについて、若干の補足的説明を行っておきたい。

表 2 が表 1 と異なる点は、「A5 依頼」を加えた点、および「決定権」を「評定者」に変えた点である。「依頼」を加えた理由は、〈許可求め〉と〈依頼〉では、行為者が異なるからである。すなわち、〈許可求め〉の「窓を開けてもいいですか」では、話し手が行為者であるが、〈依頼〉の「窓を開けてもらってもいいですか」では、聞き手が行為者になる。表 2 はそのことを分類の枠組みの中に反映させたものである。

次に、「決定権」を「評定者」に変更した理由について解説しておきたい。これは、理論的な要請によるものである。従来、行為指示的発話行為の分類において、「決定権」という用語は、概念がすりかえられた形で分類基準に適用されているケースがあり、その修正が必要だと考えたからである。先行研究の中で、聞き手が行為者となる〈命令〉〈許可与え〉の「決定権」は、どちらの場合も「話し手」にあると説明する研究があるが、この基準に立つと〈命令〉と〈許可与え〉の発話行為としての違いが区別できないことになる<sup>3</sup>。本稿は、許可、義務、価値評価等をめぐる判断に対する査定・評価を行う主体、すなわち「評定者」と、行為を実行するか否かの選択権・決定権の保有者、すなわち「選択権者」という、次元を異にする役割の区別を行い、それにより〈命令・指示〉と〈許可与え〉を明示

<sup>3</sup> 坂本ほか（1994）の分析を例にとると、「指示・命令」「許可与え」の位置づけは、以下の表の通りである。彼らは、相手、自分、どちらでもない場合に対し、略号の A、J、0 を使用しているが、以下の表では「相手」「自分」をそれぞれ「聞き手」「話し手」に変更している。

表現意図	行動	決定権	利益
指示・命令	聞き手	話し手	話し手/聞き手/0
許可与え	聞き手	話し手	聞き手

的に区別する<sup>4</sup>。行為指示的発話行為のほとんどにおいて、選択権者は行為者に重なるが、〈命令・指示〉だけは例外で、行為者である聞き手の選択権が著しく弱く、通常、選択権者は「話し手」とされる<sup>5</sup>。一方、〈許可与え〉では、許可を受けた行為を実行するか否かの選択は、行為者の意思にまかされており、行為者である聞き手の選択権はかなり強いと言える。つまり、〈許可与え〉では、話し手が「評定者」、聞き手が「選択権者」であるのに対し、〈命令・指示〉では、そのどちらもが「話し手」であり、両者の違いの明確な区別が可能となるのである<sup>6</sup>。以上が、本稿の用法の枠組みにおいて、「評定者」「選択権者」の区別を立てる理由である。

#### 4. 1. 2 調査2 「名大会話コーパス」の「テモイイ」の用例調査

「タッテイイ」との相違を明らかにするために、「名大会話コーパス」の「テモイイ」の用法の特徴や分布状況を観察した。このコーパスは、雑談を文字化したデータであり、くだけた口語体で使用される傾向の強い「タッテイイ」との対照には好適なデータと考えられたからである。語彙素検索を行い、得られた用例を絞り込んだ。検索条件は、以下の通りである。

語彙素 [て] 品詞 [接続助詞] + 語彙素 [も] 品詞 [係助詞] + 語彙素 [良い]

以上の条件で検索した結果、311例がヒットしたが、その中の動詞肯定形を受ける「シテモイイ」に観察対象を絞り込んだ結果、215例が得られた。それを表2の基準に基づき分類した<sup>7</sup>。

#### 4. 1. 3 調査3 「デハナイカ類」「ノデハナイカ類」の後方共起状況の調査

中俣(2020)において、「とてもいい」の「A4 非難・なじり」の用法の後方共起語として、「んじゃないか類」(=「ノデハナイカ類」)が使用される傾向があることが指摘されている(「非難・なじり」の用例41例中の出現頻度19回)。一方、本稿が採取した「タッテイイ」の例では、「じゃん、じゃない」など、「デハナイカ類」が後方共起する例が多いという印象をもった。そこで、採取した「タッテイイ」「テモイイ」の例に対し「デハナイカ類」「ノデハナイカ類」の後方共起状況を調査し比較した。その

<sup>4</sup> 「評定者」「行為者」という役割の区別は、仁科(2018)の“modal source/motivator”と“realizer”、および仁科が参照しているLehmann(2008)の“assessor”と“executer”に、それぞれヒントを得ている。「評定者」には、3人称者や法律・規則、社会通念・慣習などが該当する場合もあるが、表2は、それが「話し手」「聞き手」である場合に限定して示したものである。なお、「選択権」は2値的ではなくスケール性を有する概念である。

<sup>5</sup> 姫野(1997)、高梨(2011)などを参照。ちなみに、彼女らは「選択権」ではなく「決定権」を使用している。

<sup>6</sup> 主な行為指示・拘束的発話行為を本稿の基準に基づき分類した結果を表に示す。「評定者」が話し手・聞き手のどちらになるかは、文の種類によって変化する。以下の表における「評定者」の位置づけは、〈命令的指示〉〈恩恵的指示〉〈依頼〉〈勧め〉の4種では「命令文」(シロ/シナサイ/シテクダサイ等)が使用された場合、〈許可求め〉〈申し出〉は「疑問文」(シテモイイカ、シヨウカ等)が使用された場合のものである。

評定者	行為者	選択権者	受益者	発話行為の類型
話し手	聞き手	話し手	非聞き手	命令的指示(命令文)
			聞き手	恩恵的指示(命令文)
		聞き手	話し手	依頼(命令文)
			聞き手	勧め(命令文)
聞き手	話し手	話し手	許可与え(平叙文)	
		聞き手	許可求め(疑問文)	
聞き手	話し手	話し手	許可求め(疑問文)	
		聞き手	申し出(疑問文)	

<sup>7</sup> 「名大会話コーパス」の「テモイイ」に対しては、中俣(2019)の調査があり、その資料がウェブ上に公開されているが、論文化されていないため、本稿でも独自に調査を実施した。「名大会話コーパス」は、自然談話を文字化した資料のため、BCCWJと比較すると、発話意図の解釈が困難な例が多く不確定要素を含むが、中俣(2019)と本稿の調査結果は、おおむねの点で一致していることが確認できた(cf.表3)。

結果については、次節で具体的数値を示し解説することにしたい。

## 4. 2 調査結果

### 4. 2. 1 調査1・調査2の結果

調査1と調査2の結果をまとめて解説する。図2はBCCWJの「タッテイイ」の用法の割合、図3は名大会話コーパスの「テモイイ」の用法の割合を示すグラフである。表3は、それぞれの調査結果の具体的数値を整理したものである（参考までに、中俣（2019）の調査結果も添えておく）。



図2 BCCWJ「タッテイイ」の用法の割合 N=200



図3 名大会話コーパス「テモイイ」の用法の割合 N=215

表3 「タッテイイ」と「テモイイ」の用法の割合

		BCCWJ		名大会話コーパス			
		タッテイイ		テモイイ(本稿)		テモイイ(中俣2019)	
A 関 与	A1 申し出	4	2.0%	8	3.7%	11	5.2%
	A2 許可与え	0	0.0%	18	8.4%	24	11.3%
	A3 許可求め	0	0.0%	23	10.7%	19	8.9%
	A4 非難・なじり	17	8.5%	0	0.0%	5	2.3%
	A5 依頼	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
		10.5%		23.3%		27.7%	
B 非 関 与	B1 選択肢提示	54	27.0%	109	50.7%	110	51.6%
	B2 主張保証	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
	B3 受忍	28	14.0%	8	3.7%	8	3.8%
	B4 理想	30	15.0%	18	8.4%	13	6.1%
	B5 許容	48	24.0%	16	7.4%	11	5.2%
	B6 全称肯定	18	9.0%	13	6.0%	11	5.2%
	B7 論理的可能性	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%
合計		200	100.0%	215	100.0%	213	100.0%
		89.5%		76.7%		72.3%	

2つの円グラフを見比べれば、その違いは歴然としているが、以下に要点を整理しておこう。なお、用法の詳細の解説は5節で行う。

- 「タッテイイ」は、「A 関与」の用法が著しく少なく、10.5%を占めるに過ぎない。残りの90%近くが「B 非関与」の用法である。一方、「テモイイ」では、「A 関与」の占める比率が若干増し、23%程度である。
- 「タッテイイ」での「A3 許可与え」「A4 許可求め」の使用はゼロである。一方、「テモイイ」ではそれぞれ、8.4%、10.7%を占め、顕著な対照性を示す。

- 「タッテイイ」は「A4 非難・なじり」の用法が 8.5%を占める。これは「A 関与」の用法が少ない中で、例外的である。一方、「テモイイ」のこの用法での使用はゼロである。
- 2 形式のどちらでも、一番多く使用されているのは「B3 選択肢提示」で、それぞれ 27.0%、50.7%を占める。
- 「タッテイイ」では、「B3 受忍」「B4 理想」「B5 許容」が占める比率が相対的に高く、この3つの合計で過半数（53%）を占める。一方、「テモイイ」ではそれが 19.5%である。

#### 4. 2. 2 調査3の結果

図4は、BCCWJと名大会話コーパスの「テモイイ」「タッテイイ」の例に「デハナイカ類」と「ノデハナイカ類」<sup>8</sup>が後方共起した合計数に占めるそれぞれの比率をグラフ化したものである。下4段がBCCWJ、上3段が名大会話コーパスの例で、動詞の肯定形を受ける場合と否定形を受ける場合を分けて計算している。表4は、その具体的な数値を整理したものである。なお、名大会話コーパスの「シナクタッテイイ」に「デハナイカ類」「ノデハナイカ類」が後方共起する例は出現していなかった。名大会話コーパスの「タッテイイ」の使用数は肯定形・否定形を合計しても18例のみで、参考程度にとどまる数値である<sup>9</sup>。

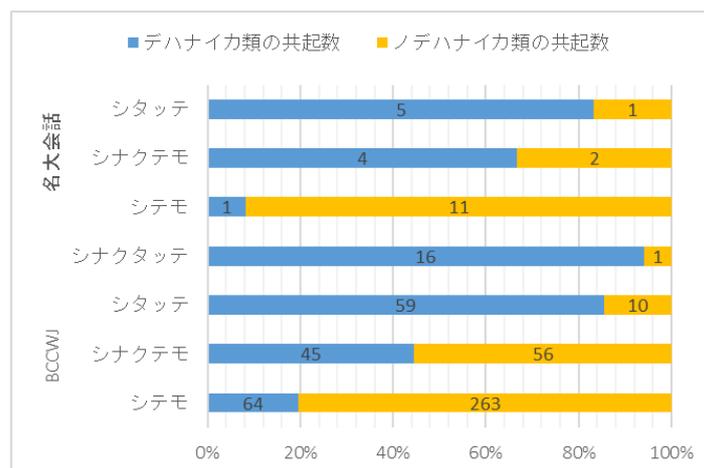


図4 後方共起合計数に「デハナイカ類」「ノデハナイカ類」が占める比率

表4 「テモイイ」と「タッテイイ」に「デハナイカ類」「ノデハナイカ類」が後方共起する割合<sup>10</sup>

出現総数	BCCWJ				名大会話コーパス			
	Vテモイイ(N=7443)		Vタッテイイ(N=270)		Vテモイイ(N=285)		Vタッテイイ(N=18)	
形式(V肯定形・V否定形)	シテモ	シナクテモ	シタッテ	シナクタッテ	シテモ	シナクテモ	シタッテ	シナクタッテ
形式別出現数	6195	1248	200	70	215	70	14	4
デハナイカ類の共起数	64	45	59	16	1	4	5	0
ノデハナイカ類の共起数	263	56	10	1	11	2	1	0

<sup>8</sup> 「デハナイカ類」「ノデハナイカ類」はそれぞれの出現形を代表するものだが、前者の出現形には「ではないか/ではありませんか/じゃん/じゃない/じゃないか/じゃないの/じゃねえか/じゃないですか/じゃありませんか」等、後者の出現形には「の/ではないか/の/じゃないか/の/ではないですか/の/ではありませんか/ん/じゃない/ん/じゃねえか/ん/じゃないの/ん/じゃないですか/ん/じゃありませんか」等、実に多様な形式が使用されている（以上はそのすべてを網羅したものではない）。

<sup>9</sup> 表4のBCCWJの「シテモイイ」の出現数は6195例で、中俣（2020）の6226例より31例少ないが、その理由は対象外にした例が本稿の方が多いためである。

<sup>10</sup> 表中の%は形式別出現数に対する「デハナイカ類」「ノデハナイカ類」の後方共起率である。

BCCWJ と名大会話コーパスでは、対象とした用例数の量が異なるので、単純な比較はできないが、「シテモイイ」には、「ノデハナイカ類」が後方共起する割合が高く、「シタッテイイ」「シナクタッテイイ」には「デハナイカ類」が後方共起する割合が高いことが見て取れる。

## 5. 「タッテイイ」の用法分析

この節では、前節で概要を示した「タッテイイ」の用法の特徴の詳細を用例に即して観察する。5.1 節では関与「タッテイイ」、5.2 節では非関与「タッテイイ」の用例を取り上げて解説する。

### 5.1 関与「タッテイイ」

関与「タッテイイ」の使用は限定的で、【A2 許可与え】【A3 許可求め】【A5 依頼】での使用はゼロであった。使用が確認できたのは、【A1 申し出】の4例と【A4 非難・なじり】の17例である。

#### 【A1 申し出】

話し手が自分の行動を申し出るものである。4例中の2例を挙げる。

- (1) 「さあ、俺は必死になって真相を突き止めているんだ。必死というより、殺人鬼の心になっている。あんたにも、殺人鬼の心で手荒に訊いたっていいんだぜ」克久は、ラッキーストライクをくわえて、火をつけた。  
(志茂田景樹『処刑病棟』1993)
- (2) 「すみません、航海長。緊急だったもんですから、海軍省からです」はっきりと目がさめた。「ドイツの通商破壊艦か？ この辺にはいないはずだ、賭けたっていいぞ」カルヴァートは通信文を受けとった。  
(ダグラス・リーマン(著)/大森洋子(訳)『落日の香港』1997)

#### 【A4 非難・なじり】

聞き手が決定権をもつ聞き手の行為が実現されていないことに不満をぶつける用法である。17例中の2例を挙げる。「少しは/〜くらい〜でなくてもいいじゃないか/だろう」の形をとるものが典型的で、すべての例の文末で、「デハナイカ類」(14例)か「ダロウ類」(3例)が使用されていた。基本的に目の前の聞き手に対して用いられるものだが、内言や独り言での「非難・なじり」の発話が引用された場合も、17例の中にカウントしている(4例)。

- (3) 入口に立ち尽くしていると、案内係が、待ち合わせか否かを尋ねた。答えようと横を向いた視線の先に、永山翔平がいた。笑っていた。「いたんなら声をかけてくれたって良いじゃないですか」  
「ごめんなさい」永山は、深々と頭を下げた。  
(山田詠美『A2Z』2003)
- (4) 「浮いた話じゃないわ。女房を造るのが、なぜいけないの」「そういうもんじゃない。俺アまだ一人前の顔ができねえんだ」「今すぐじゃなくてもいいわよ。それまでの間、あたしは親分のところで女中でもして待ってるわ、約束だけでもしてくれたっていいでしょ」「それもまずい。俺一人だつて、一家にゃ迷惑がかかってるんだ。わけがあつてな」(阿佐田哲也『次郎長放浪記』2002)

### 5.2 非関与「タッテイイ」

非関与「タッテイイ」の代表例を挙げ解説する。

#### 【B1 選択肢提示】

「～する選択肢もある」に置き換えられる用法である。データの中で最も使用例が多かった用法だが、54例中の4例を挙げる。複数の選択肢が並列されている(5)(6)(7)や、「そういう選択肢もある」という意味を表す(8)のような例がここに属す。

- (5) 「嫌ですか」「嫌もいいもないでしょう、こんなに急に…」「そうかなあ。希以子さんは北京へ戻りたい。ぼくは希以子さんと結婚したい。ぼくは安月給だが、それでも『一人は食えぬが二人は食える』と言いますからね。希以子さんはこれまでどおりキミで働いたたっていいし、なんなら子供を連れて来たたっていい」  
(諸田玲子『文芸ポスト』2005年秋号2005)
- (6) 「おまえ、疲れてるんだよ。会社やめてもいいんだよ。俺の収入だけでやっていけるよ。このマンションには住めなくなるけど、もっと安いアパートに移ったたっていいじゃないか。親父が用意してくれた多摩のマンションだってあるんだよ。何も吉祥寺に住まなきゃならないこともないだろう。なんなら俺が塾のバイトしたたっていいしさ。少しのんびりしろよ。俺、おまえ見てるとつらくなるんだ」「ごめんなさい。心配かけて」  
(中山可穂『白い薔薇の淵まで』2001)
- (7) [生でサラダに使用する場合は「サラダ水菜」の方がいいか、普通の「水菜」は生では食べない方がいいかという質問への回答]  
サラダ水菜は少し軟らかいです。生でも食べやすいけどゆでて使ったたっていい訳です。普通の水菜を生で食べても、もちろん大丈夫。水菜はしもやけにもいいらしいから、今の時期にたくさん食べておきましょう。  
(「Yahoo!知恵袋」2005)
- (8) [年上の彼氏から支払いの分担をしないことなどを理由に別れを告げられたがどう思うか]  
そのことが本当に別れの原因だったら そんな彼氏 ちっちゃいと思いませんか？今日のごめん半分出してくれる？とかだたっていいはずでしょ？そんなことも遠慮して言えないような間柄だったんなら別れたたっていいんじゃない？別れたくないなら 素直にいえなかった・・・と謝って復縁できるように まず話し合ってみたら？  
(「Yahoo!知恵袋」2005)

#### 【B2 主張保証】

データに現れた唯一の例である。「言う」「考える」などを受け「そのように表現しても言い過ぎではない」といった主張の妥当性を述べる表現である。書き言葉の用法なので、通常「タッテイイ」は使用されないが、(9)はそれが使用された珍しい例である<sup>11</sup>。

- (9) 「ころにもないことを言う」という慣用句がある。ちゃんと意識してうそなどを言うことだ。奥さん方の立ち話から店員のお世辞、テレビのインタビュー、校長の訓示まで、日常生活はこれで成り立っていると言ったっていいくらいだ。政治家の発言はその代表だろう。すべては自分の利益のための計算ずくで、国のためとか人の生活なんか「ころにない」のがほとんどらしいか

<sup>11</sup> 中俣(2020)のBCCWJの「てもいい」の調査ではこの用法が21.4%を占めていたが、名大会話コーパスでの使用はゼロである(本稿の図1、図3、表3を参照)。

## 【B3 受忍】

使用数が 4 番目を占める用法である。ネガティブな事態に対し「それでも構わない」という態度を表す用法だが、(10)は話し手にとって、(11)は聞き手にとって、(12)は第 3 者にとってネガティブな事態の場合である<sup>12</sup>。(11)では、〈励まし〉、(12)では、〈見放し・見捨て〉の態度が表されている。28 例中の 3 例を挙げる。

- (10) 「学校やめればいいでしょ。とにかく私はここにいたくないの。学校やめれば出られるんですよ」「先生だってそうさせたいんだ。どうせ児相の先生には何も言えないくせに、私なんかどうなったっていいのよ」どっちともつかずの不安定な生活に耐えられなくなったのだろう、京子の不満が爆発した。 (分担不明『いつか愛を知る日のために』1992)
- (11) 「神山君はいいな。いい友達がいる」「斉藤だって絶対がいい友達ができるって。自分を隠してるから友達ができねえだけだよ。めだったっていいじゃねえか。自分をだして、それで斉藤のことを好きなやつは好きになるだろうし、嫌いなやつは嫌いになるんじゃないやねえか？ 嫌われたっていいじゃねえか。自分をだせば好きになるやつも絶対でてくるぞ。つまんねえぜ、せっかく南中にいるんだからよ、いいやつだっていっぱいいるぞ」 (川上健一『翼はいつまでも』2001)
- (12) 「そうかあ、つまりは、あのおねえさんたちをすこしばかり、きりきりまいさせてやりたいってことなんだな」「いやあ！ そんなすこしばかりなんてもんじゃないよ。もう、がっちり、ぎりぎりいためつけてやりたいよ。死なない程度にさ。いや、あんなやつ、死んだっていいや!」しゃべっているうちに、フトシはかっかしてきた。 (山中恒『ねえちゃんゲキメツ大作戦』2001)

## 【B4 理想】

使用数が 3 番目を占める用法である。現実と異なる望ましい事態を表すものだが、ここに分類した例を〈当然の期待〉〈不満〉の 2 つに下位分類した<sup>13</sup>。〈当然の期待〉は未実現の事態が当然、実行・実現されるべきであるという話し手の期待や評価的態度を表すものである。これには「べきだ」での言い換えが可能な場合と、それが不自然な場合がある。〈不満〉は、他者による実行・実現が当然期待されるにも関わらず、それが実行・実現されていないような場合の、話し手の不満を表すものである。

次の(13)～(15)は〈当然の期待〉の例で、(13)は「べきだ」での言い換えが可能だと思われる例、(14)(15)はそれが不自然に感じられる例である。

- (13) まあ、あなたとけんかしてもしょうがない。しかし、委員長、これは委員長としてお考えいただくことですよ。こういう問題で、重要な問題なんですよ。そのときに、やはり問題があるといっ

<sup>12</sup> (11)は「許容」との連続性が認められる例だが、「許容」が規則や社会通念を基準とした許容判断を表すのに対し、(11)は、話し手個人の評価基準を土台にしているという相違がある。ただし、この差異は連続的で、截然とした区別が困難なケースも多い。

<sup>13</sup> 本稿では中俣(2020)の「てもいい」の用法枠組みに依拠して「タッテイイ」の用法分類を行っているため、原則として、中俣の分類枠組みにない新たなカテゴリーは立てない方針をとった(「A5 依頼」はその唯一の例外である)。「B4 理想」に分類した「タッテイイ」の例については、その用法特性に適した新たなカテゴリーを考える必要性を感じているが、その定義、名称、下位分類等の検討は今後の課題にしたい。

て党の代表が出ていくぐらいは認めたっていいじゃありませんか。委員長、その判断をまず下してください。  
(「国会会議録」衆議院/予算委員会 第096回国会 1982)

- (14) 「こうやって皆でイヴをお祝いできるなんてよかった。もしこの仕事がなかったら、あたしのイヴなんてつまらないものだったと思うな」酒に弱いマリはすでに酔っているらしい。俊彦は自分に言い聞かせるように言った。「イヴだからって、恋人や家族と過す人たちがばかりとは限らないよ。たまにはこういうのがあったっていいじゃないか。ねえ、高津さん」

(赤羽建美『イヴの贈り物』1991)

- (15) 「芳江がね、修ちゃん、わたしを嫌っているのかしら、と言ってたよ。日曜日に全然寄りつかないから」「それは誤解だよ。おれが日曜日ごと、釣りに行ってることは知ってるだろうに。釣れたときは持ってきてるじゃないか。おれのほうこそ、たまには天ぷらを揚げる支度でもして、待っていてもらいたいくらいだ。一緒に晩めし食って行ったっていいだろうに、といつも思ってる」

(志水辰夫『殺ったのは誰だ?!』1999)

次の(16)は、〈不満〉の例である。会話の場にはいない兄の朱海が、自分の勉強をちっとも手伝ってくれないことに対する不満を友人に訴える発話で使用されたものである。〈不満〉は、「A4 非難・なじり」との連続性をもつが、後者は対面場面で、聞き手が実行して当然の行為が実行されていない不満を、直接、聞き手にぶつけるものであるのに対し、〈不満〉は聞き手が現場にいない場合や、第3者の行為の不実行・非実現に対する話し手の不満を表すという違いがある<sup>14</sup>。

- (16) [朱海はうらの兄で、発話の現場にはいない]

「だいたい朱海くんはひいきなんだよねー」持ち込んだガラス・テーブルの前にお行儀悪く膝を立てて、首の後ろを下敷きで扇ぎながら、うらははそう言った。「あんたにはさー、受験勉強大丈夫なの、よかったら時々行って見てあげようか?なんてまあ甘い声出しちゃうくせに、実の妹がひーひー言ってるのは見殺しなんだもんねー。ちっとくらい手伝ってくれたっていいと思わな一い?」「怠けるからいけないの。うらの場合、宿題やる気なんてはじめからないじゃない。同情の余地ないもん」

(久美沙織『丘の家のミッキー』2001)

#### 【B5 許容】

倫理的、社会通念上許容されるということを表す。中俣(2020)では、規則や慣習などで〈認められる〉という意味が強いものとされるが、規則で許容されるという意味で使用された「タッテイイ」の例は少なく、本来は望ましくないこと、あるいは低評価される事態に対し、人間の本性や別の社会通念に立てば容認されるといった意味をもつ例が多い。「B4 理想」が現実と異なる望ましい事態につい

<sup>14</sup> ただし、独り言や内言の場合は、仮想的な聞き手に向けての発話と捉えることも可能なため、2つの用法の境界は連続的である。また、〈当然の期待〉に分類した例でも、中立的な期待を表すものは少なく、実現が当然に期待される事態が、思い通りに展開していないことや聞き手がその必要性を認識していないことなどに対する、話し手の苛立ちや不満の含みをもつ例が多い。なお、「シテモヨカッタ」は、話し手自身の行為の非実現を「スルベキダッタ」と悔いる〈後悔〉の用法をもち、「名大会話コーパス」の「シテモヨカッタ」6例中の3例はこの用法に該当する例であった。一方、「シタッテヨカッタ」は〈後悔〉には使用されないと見られ、出現した7例はどれも他者や自己が置かれた状況に対する〈不満〉を表すものであった。本稿では、前者6例、後者7例のどちらも「B4 理想」の例としてカウントしている。

て述べるのに対し、「B5 許容」は、「必ずしも望ましい事態とは言えないが、社会通念・状況に鑑みれば許容可能」といった意味の違いがある。48 例と、「タッテイイ」で 2 番目に多い用法である。ここに属する例を〈許容〉と〈反論〉に下位分類した。〈許容〉は上記の性質をもつもの、〈反論〉は、話し手が聞き手から非難を受けたような場合に、自分の立場は社会通念や状況に鑑みれば許容されるはずのものであると、自己正当性を主張し、聞き手に認識の変更を求めるような場合の用法である。

次の(17)は規則、(18)(19)は、社会通念・慣習などに基づけば許容可能という意味の例である。

(17) ところが、今文部省のやっているのは、みんな同じようにやれと。これはおかしいんじゃないかということで、具体的にお聞きします。そうなりますと、高等学校、十六歳以上というよりも高等学校というの、学校教育法のどこを読んでも中学からそのまま行くとは書いていない。大人が行ったっていいんです。というか、大人の人も当然行っています。どうして高等学校の生徒にこういう形で、小学校と同じ言い方で国旗・国歌に対する態度を指導基準をつくらなくちゃいけないんですか。（「国会会議録」参議院/国旗及び国歌に関する特別委員会 第 145 回国会 1999）

(18) 地下道には、企業戦士の悩みよりも苛酷な現実が… ここまで乗ってきた車はどこに？ 「それがねえ、笑っちゃうんですけど、サラリーマンの悲しさですかね。そこいらへんに停めてしまったっていいはずなのに、気がついたら駐車場にきちんと入れてましたよ。まったく小市民というか、規則に忠実っていうか、悲しいのを通り越しておかしくなっちゃいました。そのうえ、『あ、まだこの車、ローンが残ってるんだ』なんて考えたりして」

（森川直樹『あなたがホームレスになる日』1994）

(19) [女優の川島なおみをテレビ番組で見て、目と鼻を整形していると思った]  
別に芸能人だから整形したっていいとは思いますが、彼女の場合性格悪そうな顔に出ているし、仕事も中途半端な感じだし“ワイン”も“犬”も自分を演出するための小道具にしているところがとてもイヤですねえ。（「Yahoo!知恵袋」2005）

次の(20)～(22)は、通常は否定的に評価される傾向をもつ事態に対し、人間の本性や状況を考慮すれば、許容可能だという意味を表すものである。前接の動詞は「喧嘩する」「(配偶者以外の)誰かにときめく」「人と違う」など、通常、否定的に評価されやすい事態を表すが、「タッテイイ」は、状況や人間の本性から見れば、それも許容可能という話し手の評価的判断を表している。類例としては、相田みつおの「つまづいたっていいじゃないか、にんげんだもの」という詩があるが、ここに分類した 48 例中の 2 例は、その引用例である。

(20) [義母や夫の妹、弟嫁が「感謝していると言えれば何でもしてくれる」と自分のことを噂しているのを聞いてしまい、気持ちの切り替えに悩んでいる長男の嫁の相談]  
自分が知っていることを隠していると、辛いよ。ずうっと、義母がそんな風に考えてるんだっておもっちゃう。喧嘩くらいしたっていいじゃない。同居が難しいのは当然だけど、一人でもまんすることはないんだよ。その言葉に傷ついたこと、伝えないとこの先が辛いよ！

（「Yahoo!知恵袋」2005）

(21) [既婚者で結婚後に好きと言われた経験があるかという質問への回答]

自分が好きになった人に、「好き」と言われたら、やっぱり考えますね。アクションは起こせません。その後どうするか、を考えたら、みんなが不幸になるのは分かっていますから、そういう雰囲気にはならないように、心がけています。勿論電話もメールも、そういう相手とはした事はありません。結婚していても、誰かにときめいたっていいんじゃないでしょうか。後は、自己責任ですから。

(「Yahoo!知恵袋」2005)

- (22) 自分への（あるいは自分らしさへの）こだわりは、ただの頑固さとは違います。あなたがあなたらしくあるためには、あなた自身へのこだわりをもつ必要があります。自分にこだわれば、自分と自分以外の人との違いにも気づけます。そして、「人と違ったっていいじゃないの」と自然に思えるようになります。この事実は自分表現にとって、一つの準備段階となります。

(赤羽建美『自分の「素敵」を見つけよう』1997)

次の(23)(24)は〈反論〉の例で、聞き手の非協力的態度や非難のことばに対し、自らの行為や当該事態は「許容されるはずのものだ」という、話し手の異議申し立て・反論の意図を表すものである。

- (23) その日の夜、夕食の席で、おふくろが言った。「直樹、あんたお父さんの書斎で毎日何やっているの」「別に…何だっていいだろ」「別に、聞いたっていいじゃない」「別に、言わなくたっていいだろ」おふくろには彼女のことを知られたくなかった。

(浦賀和宏『記憶の果て』2001)

- (24) [幕下の力士の梅響と5歳の娘の母であるすみれの雰囲気がいいという竜太のことばに]  
「男と女を見れば、すぐそういう風にする」「そうじゃなくて、梅響は子供好きだし、お互い時々会ってりゃ楽しくなるじゃない、暮らしが」「梅響は、来場所十両に上がって、ここ一年くらいが一番大切な時なのよ。女がどうか言ってる場合じゃないわよ」「別に、女の友達くらいいたっていいだろう」「ダメッ」ムキになったひらりを見て、竜太はニヤリと笑った。

(内館牧子『ひらり 上』1993)

#### 【B6 全称肯定】

「誰、何、いつ、どこ」など、「疑問語（格助詞）Vシテモイイ」の構造をもち、「疑問語デモVシテイ」に言い換えられるものである。18例中の2例を挙げておく。

- (25) これから移住を考えている人は何のために行くのかというのを明確にしておくことが大切。何をしたっていい、ただ方向性を見失わないことが重要だと思います。

(溝口恵美・秋葉文子『沖縄移住計画』2004)

- (26) 「なんだってあの男は、エレベーターへ乗って、四十何階かの屋上レストランへ上ろうとしたんだらう？ どうせたすからないとわかっていたら、どこで死んだっていいだらうに。そんな上の方の食堂へ行ったところで、もうメシを食えない体になっている」那須の言葉はかなり乱暴な言い方であったが、これまで一同が見過ごしていた点を突いていた。

(森村誠一『人間の証明』1977)

## 6. 考察

この節では、「テモイ」と「タッテイ」が際立った対照性を示す事例を取り上げ、対照性を生じさせる理由や、そこから浮かび上がってくる「タッテイ」の特性を指摘し、2節で提起した問題への解答を示す。2形式が際立った対照性を示す具体的なケースとしては、次の3点があげられる。

1. 「テモイ」は疑問文で使用可能だが、「タッテイ」はそれが不可能である。
2. 「テモイ」には「ノデハナイカ」が後方共起する一定の傾向が見られるが、「タッテイ」には「デハナイカ類」が高い割合で後方共起する。
3. 「タッテイ」が使用された発話は、話し手の非難・異議申し立てのニュアンスを伴うことが多い。

1~3のそれぞれについて順を追って解説を加えていくことにしよう。なお、以下の小節のタイトルはいずれも「タッテイ」の統語・意味的特性に対するものである。

### 6. 1 疑問文で使用されないという制約から導かれる帰結

疑問文で使用されないという「タッテイ」の統語的特性は、その用法全体を支配する、もっとも本質的・中核的な性質である<sup>15</sup>。〈許可求め〉で「タッテイ」の使用がゼロなのは、こうした統語的制約から導かれる自然な帰結である。〈許可求め〉は通常、疑問文によって表されるが、疑問文での使用が不可能な「タッテイ」では、その意図を表すことができないからである。一方、「テモイ」は、こうした制約から自由で、「～してもいいですか」の形で〈許可求め〉で頻繁に使用されるものである。

ここで、2節で挙げた(2)の〈提案〉の発話で「タッテイ」の使用が非常に不自然となる理由について考えておきたい。結論を先取りすれば、その理由は、(2)の夫の発話は疑問文の1タイプに属するものだからである。以下に(27)として再掲する。

(27) 夫：そろそろエアコンつけ {ても/?たって} いいんじゃない？

妻：あたしにつけろって言うの？

(27)の夫の発話の文末で使用された「んじゃない？」は「ノデハナイカ」の出現形のひとつだが、この場合は、「エアコンをつけるべきである」という自分の意見を述べ、その実行を妻に示唆している発話だと考えられる。このタイプの「ノデハナイカ」の用法は、宮崎(2005)において〈意見要求〉に位置づけられているものである。すなわち、話し手の意見の妥当性について、聞き手の意見を求めるもので、間接的な〈問いかけ性〉をもつが、聞き手に求めているのは情報ではなく、聞き手の意見であるという点で、典型的な〈情報要求の問いかけ〉とは区別されるものである(同書p.91)。夫の発話の「いいんじゃない？」は上昇調で発話されると思われるが、こうした音調の特徴から見ても、〈問いかけ性〉の存在は明らかである。(27)の夫の発話で「タッテイ」の使用が不自然となるのは、そのためである<sup>16</sup>。

<sup>15</sup> この点については、日本語記述文法研究会編(2003)に簡潔な記述がある。なお、「タッテイ」は疑問文で全く使用不可能というわけではなく、本稿のデータには、「バラしたっていいんだろ？」のような確認要求や修辞疑問文で使用された例があった。しかし、これらは未知の事柄について情報提供を求める、典型的な疑問文とは異なるものである。

<sup>16</sup> (27)では、「んじゃないだろうか」は使用しにくいと感じる。その理由は、「ノデハナイダロウカ」を使用した場合は、「(我々は)エアコンをつけるべきだと思うが、どう思うか」という、夫の案の提示にとどまり、妻に実行を促す意図までは表さないからだと考えられる。音調も自然な下降調をとると思われる。

## 6. 2 「デハナイカ」の高い後方共起率が意味すること

4.2.2 節の図 4 や表 4 で明らかなように、「タッテイイ」には「デハナイカ類」が高い比率で後方共起する。一方、「テモイイ」には、「ノデハナイカ類」が後方共起する傾向が見られる。こうした差異が生じる理由は、「デハナイカ類」と「ノデハナイカ類」の機能の根本的な相違を指摘することによって説明可能である。

2 形式の機能の違いを例に基づき解説しておこう。比較のために(27)を再掲し、2 節の(3)の例を若干加工した(28)を以下に挙げる。

(27) そろそろエアコンつけ {ても/??たって} いいんじゃない?

(28) こんなに暑いんだからエアコンつけ {ても/たって} いいじゃないか。

(27)の夫の発話意図は、上述の通り、妻への〈提案〉を表すものだが、一方(28)は、エアコンを使うことに消極的な妻に対する夫の〈非難・なじり〉の意図を表すものである。文末の「んじゃない?」(＝ノデハナイカ)と「じゃないか」(＝デハナイカ)はそれぞれの意図の相違を端的に反映するものである。

「デハナイカ」と「ノデハナイカ」は、「ノ」ひとつの有無の違いに過ぎないが、それぞれの機能は根本的に異なるものである。「ノデハナイカ」は、宮崎 (2005 : 99) では〈不確実情報提供〉〈確認要求〉〈意見要求〉の 3 用法をもつとされるが、(27)はその中の〈意見要求〉に該当するものである<sup>17</sup>。一方「デハナイカ」は、聞き手に認識を喚起する機能をもち、〈驚き・発見〉〈非難〉〈確認〉などの用法をもつ(「ではないか」グループ・ジャマシイ編著 1998)。(28)の「じゃないか」は、〈非難〉に該当するものである。

〈意見要求〉を表す「ノデハナイカ」が「タッテイイ」と共起しにくいことは、前節の(27)の例で解説した通りだが、「デハナイカ」はこれとは対照的に、「タッテイイ」との相性が非常によい。その理由は、両者の用法特性の同質性によると考えられる。すなわち、「デハナイカ」は、話し手との認識の共有を聞き手に喚起する〈認識喚起〉<sup>18</sup>の機能を中核にもつもので、〈確認要求〉は、認識を喚起した結果、聞き手の認知状態を確認するものである。一方〈非難〉は、認識できて当然のことを聞き手が認識していなかったり誤認したりしている状況で、非難の気持ちを込めて聞き手に正しい認識を求める話し手の意図を表すものである。「タッテイイ」は「デハナイカ」の〈非難〉にぴったりと重なる用法特性を有しており、2 形式の強い共起関係は、両者の意味・機能の同質性もたらす現象として説明可能である<sup>19</sup>。なお、「テモイイ」は用法上の制約が少なく、〈非難・なじり〉にも使用可能である。

<sup>17</sup> 3 用法の詳細については、宮崎 (2005) を参照されたい。

<sup>18</sup> 〈認識喚起〉という概念および「デハナイカ」の用法の詳細については、蓮沼 (1995b) を参照されたい。なお、同論文では、ここでの〈非難〉に該当する「デハナイカ」の用法を〈認識形成の要請〉と呼び、「ダロウ」との互換性の存在を指摘している。本稿で「A4 非難・なじり」に分類した 17 例はこの用法の典型例だが、文末の「デハナイカ」「ダロウ」は、いずれの例でも置換可能である。

<sup>19</sup> 図 2 に示した通り、「タッテイイ」では「非難・なじり」の用法が一定の割合で使用されているが、「受忍」「理想」に分類した例でも、不満・非難のニュアンスを伴う例が多い。ただし「許容」の「タッテイイ」は、事態が話し手に関するものなのか、聞き手に関するものなのかによって、正反対の意味になる場合がある。例えば泣いている聞き手に対し、「泣いたっていいんだよ」と言えば、聞き手に寄り添った慰め・励ましの意を表すが、話し手への非難に対し「泣いたっていいじゃないか」と言えば、反論の意を表すことになる。一方「テモイイ」は、「非難・なじり」では使用されにくく、不満・非難のニュアンスは「タッテイイ」に比べると総じて希薄である。ただし、データのジャンルを映画やドラマのシナリオ等にした場合は、別の結果が得られる可能性も排除できない。

(28)では、「テモ」「タッテ」のどちらもが使用可能なのはそのためである。

### 6. 3 「挑戦的」なニュアンスの源泉

最後に、「タッテイイ」では、「非難・不満・異議申し立て・反論」といった話し手の挑戦的な姿勢が前面に出やすい理由について考えておきたい。

本稿では、「タッテイイ」の中核的機能を〈自己正当性の主張〉と捉え、挑戦的なニュアンスはそこから生じていると考える。すなわち〈自己正当性の主張〉とは、自らの立場や意見は、一般通念や自らの信念などを土台とする正当な裏付けもつものであるといった話し手の主張を表すものだが、〈非難〉〈不満〉〈異議申し立て〉〈反論〉は、聞き手における認識の欠如や誤認、話し手と対立的な立場・意見などが存在する文脈状況において、〈自己正当性の主張〉から語用論的に派生される機能として捉えることが可能である。そして〈主張〉は基本的に平叙文が担う機能であり、疑問文によって表されるものではない<sup>20</sup>。「タッテイイ」がもっぱら平叙文で使用されるのはそのためである。

「タッテイイ」が〈異議申し立て〉〈反論〉に使用されやすい理由は、「タッテ」が構成要素の中にもつ「～と言ったって」の「言う」<sup>21</sup>に由来していると考えられる(倉持 1971)。すなわち、「あなた(世間)がpと言ったとしても、私は～pを主張する」といった構造をもち、他者の意見と対立する命題の主張を行うものである。今後は、引用表現の「タッテ」にも観察の範囲を広げ、引用表現と逆接性が交錯する領域の探索にも足を踏み入れていきたいと考えている。

## 7. おわりに

本研究で明らかとなった事実が、日本語教育にどのような示唆を提供しうるかについての私見を述べ、本稿を締めくくりにしたい。

まず、「タッテ」や「タッテイイ」を日本語教育の教授項目に入れる是非についてであるが、中級以上の理解文型として導入する意味はあると思うが、使用文型に入れる必要はないと考える。ほとんどの場合、「タッテ」から「テモ」への言い換えが可能であるのに対し、その逆の「テモ」から「タッテ」への言い換えには強い制限があるからである。また「タッテ」は、自己主張や非難・反論の発話で使用される傾向が強く、失礼なニュアンスを伴いやすいということももうひとつの理由である。

学習者が職務上の要請などで、上級以上のレベルの日本語能力を必要としている場合は、「タッテ」の特性に対する知識をもつことには意味があると考えられる。特に、日本文学の翻訳者として活躍するような場合は、「タッテ」がもつニュアンスを的確な他言語の表現に翻訳するために、有用な知識になりうるのではないかと感じている。

「タッテ」は関東方言の要素が強く、近畿方言の話者は違和感を示すことがある。筆者は1996年の秋、神戸学院大学で開催された関西言語学会(KLS)のシンポジウムのパネリストとして、談話接続語の「だって」と「でも」について発表したことがある。その時、会場にいた大阪弁話者の参加者から「「だって」はええカッコしいに思われるから、自分は使わない。大阪弁では「そやかて」を使う」と

<sup>20</sup> 言うまでもないことだが、ここでの「疑問文」は情報提供を求める疑問文のことを指し、修辭疑問文や否定疑問文が固定化した「デハナイカ」「ノデハナイカ」などは考察の対象外である。

<sup>21</sup> ユーバスの「タッテ」の検索結果に雑多な用法が混在していた理由のひとつは、「タッテ」がその語構成に引用要素をもつためである。前接の動詞には「行く/行かない/行った/行こう/行け(つつ) たって」等、すべての活用形が接続可能だが、このことは「タッテ」が引用由来の形式であることを物語るものである。一方「テモ」は引用要素を含んでいない点で、その接続や用法は「タッテ」に比べると相対的に単純である。

のコメントを頂戴した。筆者は関東方言を母方言とするため、そのような反応は予想外のことで新鮮な驚きを覚えた。近畿方言の「そやかて」や「かて」（例「京都はどこ行ったかて観光客だらけやわ」＝京都はどこに行っても観光客だらけだわ（高木 2017: 43）下線は蓮沼）と関東方言の「だって」「たって」の比較も興味深い。引き続き研究の視野を広げながら探究を深めていきたい。

## 参考文献

- 遠藤直子 (2006) 「初級文型の硬直化」を防ぐために一テモイイ文型を例として一『日本語文法』6(1): 72-87
- 遠藤直子 (2008) 「日本語学習者による初級文型～テモイイのとらえ方について一「初級文型の硬直化」の問題から一」『日本語教育』137: 21-30
- 倉持保男 (1971) 「たって」松村明 (編)『日本文法大辞典』pp.434-435 明治書院
- グループ・ジャマシイ (編著) (1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 三枝令子 (2015)『語形から意味へ 機能中心主義へのアンチテーゼ』くろしお出版
- 坂本恵・川口義一・蒲谷宏 (1994) 「行動展開表現」について一待遇表現教育のための基礎的考察一『日本語教育』82: 47-58
- 高木千恵 (2017) 「大阪方言の接続助詞カテについて」『阪大社会言語学研究ノート』15: 35-58
- 高梨信乃 (2010)『評価のモダリティ 現代日本語における記述的研究』くろしお出版
- 高梨信乃 (2011) 「行為要求について：日本語教育における問題」『神戸大学留学生センター紀要』17: 1-17
- 中俣尚己 (2019) 「コーパスから見た「てもいい」の各種用法の使用実態」(庵ゼミ合宿 2019/6/29)  
<[http://nakamata.info/nakamata\\_2019\\_temoi.pdf](http://nakamata.info/nakamata_2019_temoi.pdf)>
- 中俣尚己 (2020) 「書き言葉コーパスに見られる「てもいい」の用法一頻度とコロケーションを考慮した文法記述一」田窪行則・野田尚史 (編)『データに基づく日本語のモダリティ研究』pp.21-39 くろしお出版
- 仁科陽江 (2018) 「対照言語学のためのモデル化の試み一モダリティの人称制限を例に一」『日本語教育連絡会議論文集』Vol.30: 175-183
- 日本語記述文法研究会 (編) (2003)『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』くろしお出版
- 蓮沼昭子 (1995a) 「談話接続語「だって」について」『姫路獨協大学外国語学部紀要』8: 265-281
- 蓮沼昭子 (1995b) 「対話における確認行為：「だろう」「じゃないか」「よね」の確認用法」仁田義雄 (編)『複文の研究 (下)』pp.389-419 くろしお出版
- 蓮沼昭子 (2020) 「「くよくよしたってしょうがないよ」一評価表現を伴う「テモ/タッテ」構文の意味と機能一」『日本語教育連絡会議論文集』Vol.32: 44-61
- 姫野伴子 (1997) 「行為指示型発話行為の機能と形式」『埼玉大学紀要』33(1): 169-178
- 前田直子 (2009)『日本語の複文 条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版
- 宮崎和人 (2005)『現代日本語の疑問表現一疑いと確認要求一』ひつじ書房
- Lehmann, C. (2008) Speech-act participants in modality. Ms. International Conference on Discourse and Grammar, Ghent University College, May23-25, 2008. <[http://www.christianlehmann.eu/publ/lehmann\\_modality.pdf](http://www.christianlehmann.eu/publ/lehmann_modality.pdf)>

## 調査資料

- 国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ) <<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>>
- 国立国語研究所「名大会話コーパス」 <<https://chunagon.ninjal.ac.jp/nuc/search>>